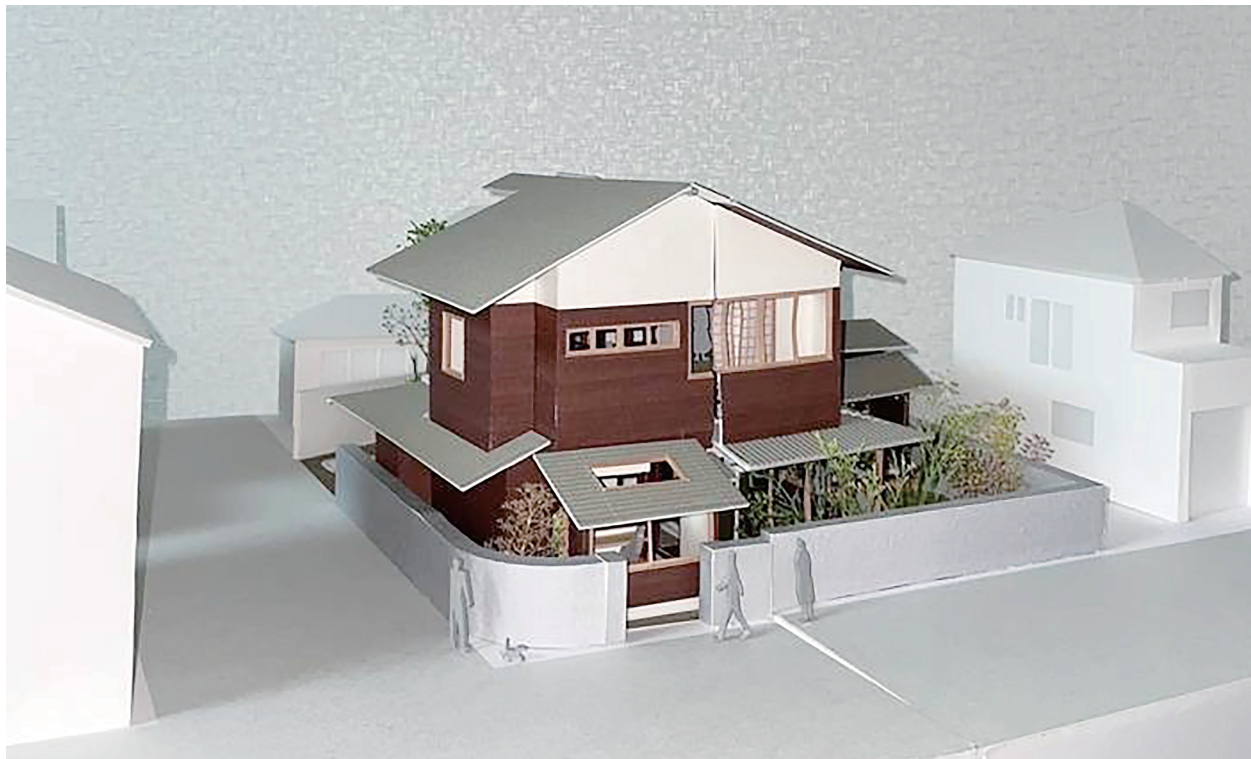


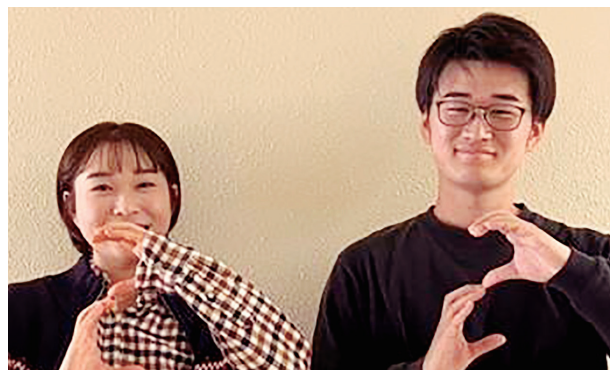


湯 埧 (とうじ)

ここ数年、建築業界では建築費の高騰、人口減少による供給過多などの問題から、既存の資源を活かした「リノベーション」という手法が注目されている。良いところを磨き上げ、欠点を補強し、社会に戻すことで残されてきた建物には、そこで過ごされてきた時間と歴史が刻まれている。

対象物件は、別府市内にある築80年程の住宅で、元はある外務大臣の静養のために用意され、用途を変えながらも現在までその価値を継承するように残されてきた。

一方で現代人は、様々なストレスを抱える中、自分を労わる時間を持てずに疲弊している人が多い。ならば住まいは、自分の心を許せる安全地帯とし、再び社会へと戻っていける場所



伊藤愛莉さん・三好一真さん

であってほしい。

そこで、日常を過ごす中で疲弊した心身を、湯を中心とした暮らしの中に置き、自分を見つめ直し、癒すことを「湯埧」とし、この建物の持つ療養と土地が持つ温泉というポテンシャルをリノベーションの手法により交えることで、湯埧が完結するという住まいを提案する。